

1. 題材名

「卒業に向けてよりよい学級にするための作戦を考えよう」

（ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決）

2. 学級活動（1－ア）で育成をめざす資質・能力

○学校生活の充実と向上のための集団活動の意義や活動を行う上で必要になることを理解し、合意形成のための手順や方法を身に付ける。

○学級の生活をよりよくするための課題を見いだし、課題解決のために話し合い、合意形成を図り、協働して実践できる。

○学校生活の充実と向上に向けて学校の一員としての自覚と役割意識をもち、ほかの生徒と協力して、自主的、実践的に活動に取り組もうとする。

3. 題材設定の理由

【生徒観】

個人情報保護のため省略

【題材観】

本題材は、体育祭や合唱コンクールをはじめとした3年生が主体となって取り組む学校行事が一通り終わり、高校入試や卒業までの時間が少しずつ短くなってきた状況で挙げた題材である。12月には新生徒会が発足し後輩へとバトンパスをする時期となる。また、本校の行事は全校縦割りや学年全体で行うことが多く、学級単位で活動する機会は授業以外にあまりない。様々な行事や体験を通して成長してきた3年生だが、よりよい学校づくりやリーダーとしての成長だけでなく、卒業にむかってよりよい学級にしていくために、3年2組としてできることがあるのではないかと考えた。

また、学校行事や様々な活動でリーダー経験をする中で、成功体験や苦難を乗り越えた経験から自信をつけはじめた生徒が多くいる。さらにそれを周囲から支えるフォロワーとしての力も育ってきている。学級スローガン「進め！特急3－2～笑顔の卒業行き～」にあるように、クラス全員が笑顔で卒業していくために今までの活動や成長をふまえながら、より深い人間関係づくりや助け合い高め合える関係づくりを目指してよりよい学級づくりへとつなげていくことのできる題材である。

【指導観】

限られた人間関係の中で小さいころから過ごしてきた生徒が多い状況である。互いのことを認め合う一方で、自分の言動で誰かを傷つけたりトラブルになったりしてしまうことを恐れ、自分の考えを表現するのが苦手な生徒を入学してから多く見聞きしてきた。そんな状況から修学旅行や合唱コンクールといった学校行事などを機会としてたくさんのお話を1年次、2年次と重ねてきた。そして2年生の後半ごろから自分たちの課題に気づき解決しようという機運が高まってきた。そのような経験を経て現在のような安心して過ごすことのできる集団が形成されていると考える。自分の考えを表現しながら他者と意見を交流し合意形成を図る話し合い活動を通して今ある実態からの成長を図っていきたい。ときには話し合いがうまく進まずもどかしい場面もあると予想されるが、教師が粘り強く見守る姿勢を大切にしたい。学級という集団としての合意形成、それに伴う実践と振り返りというプロセスを授業のなかで実践したいと考えている。

本時は「卒業に向けてよりよい学級にするための作戦を考えよう」について互いの意見を尊重し合いながら話し合う。全体での話し合いでは、最終的に一つか二つに意見をまとめることを目指して意見交換をしながら合意形成をさせたい。その過程において、自分の意見に固執する生徒が出てくることが予想されるが、納得したうえで自分の考えを変えたり、説得をしたり、折り合いをつけるように助言していく。また、意見には様々な種類があることを理解し、関連する発言や相手に対する意見が飛び交うような話し合いの雰囲気が醸成できるようにする。

3年生としての立場からどのような結論が出てくるかわからないが、自分たちの活動を自分たちでつくっていくことへの達成感や満足感を共有することで、協力してよりよい人間関係を築き、自分たちの力でよりよい学級・学年・学校生活を作っていこうとする自治的能力を育てていきたい。

4. 学級活動の評価規準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	学校生活の充実と向上のための集団活動の意義や活動を行う上で必要になることを理解している。合意形成のための手順や方法を身に付けている。	学級の生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決のために話し合い、合意形成を図り、協働して実践している。	学校生活の充実と向上に向けて学校の一員としての自覚と役割意識をもち、ほかの生徒と協力して、自主的、実践的に活動に取り組もうとしている。

5. 指導と評価の計画

時間	○ねらい・学習活動	めざす生徒の姿		
		知・技	思判表	主体的態度
学級活動	「卒業までにどんなクラスを目指したいか考えよう」 ○よりよい学級とはどんな集団なのかを具体的に深めていく。 ・クラスの課題や現状を見つめ、今後どのようにすればよいか考える。	話合いの仕方についてより深く知り、理由をつけて説明できる。	課題を解決するための方法を具体的に考える。	意見交換をしようとしている。
放課後等	企画委員会で活動計画を作成する。(提案理由、めあて、話し合うことの確認)			
学級活動(本時)	「卒業に向けてよりよい学級にするための作戦を考えよう」 ○これまで培った力をもとに、さらによりよい学級にするための作戦を話し合う。		学級をよりよくするための課題を把握し、その解決に向けてお互いに意見を出し合い、合意形成を図っている。	学級の一員としての自覚をもち、積極的に課題を解決しようとしている。
学級活動	「学級会で決まった実践活動」 〈11月下旬～12月上旬 実施予定〉	互いに支え合い、自主的に動くことの大切さを理解している。	学級で決めた活動に取り組んでいる。	互いの良さを生かし合い、よりよい学級を作ろうとしている。
学級活動	「振り返り」 〈12月下旬〉	仲間とともに、よりよい学級を作ることの大切さを理解している。	仲間と協力して取り組んだことで、これから学級のために自分ができることを考えている。	学級での取り組みを振り返り、自己の成長に気付き、良さを伸ばそうとしている。

6. 本時について

- (1) 議題 「卒業に向けてよりよい学級にするための作戦を考えよう」
(ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決)

(2) めざす生徒の姿

- 学級をよりよくするための課題を把握し、その解決に向けてお互いに意見を出し合い、合意形成を図る。
- 学級の一員としての自覚をもち、積極的に課題を解決しようとする態度を養う。

(3) 本時の展開

	生徒の活動	評価・指導上の留意点
導入	<p>1. 議題等の確認</p> <p>議題「卒業に向けてよりよい学級にするための作戦を考えよう」を確認する。 ～3年2組をよりよくするための方法を話し合おう～</p> <p>○提案理由や活動内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級スローガンに掲げている「笑顔で卒業」のために学級でこれからできることを考え実践したい。 <p>提案理由</p> <p>全校縦割りや学年全体での活動が多く、3年2組としての関係づくりがまだ十分ではないと感じています。そこで学級スローガンにもある「みんなが笑顔で卒業」するため、また卒業したあとにもまたみんなで会いたいと思える最高のクラスにするためにできることを考え実践します。</p>	<p>○企画委員は次のこと意識し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学校行事などの経緯を盛り込みながら、課題と提案理由を具体的に説明する。 ・具体的な解決方法となるよう「誰が、いつ、どこで、何を、どのように」というヒントを伝える。 ・ただ単に楽しいことをしようではなく、学級の実態を客観的に捉えられるように事前に企画委員と打ち合わせする。
展開	<p>2. 話し合い活動</p> <p>(1) 柱1：前回話し合っためざすクラスになるために残り約4か月でできることは何だろう。</p> <p>○近くの人とまずは話し合いを進め、企画委員は全体をコントロールする。→発表、共有【出し合う】</p> <p>予想される反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しめるレクリエーションをしたい ・互いのいいところを見つける ・入試に向かってクラスで勉強する ・なかなか教室に来ることができていない生徒と一緒に楽しめることを考える ・お互いのことをもっと深く知る <p>(2) 柱2：めざしたいクラスになるためにどの方法がいいだろう【比べ合う】</p> <p>○柱1の内容をもとに話し合いを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいや提案理由に沿うよう意見交換をしながら合意形成をしていく。また、提案を修正したり、よりよいものに練り合わせたりしていく。 <p>①提案に対する質疑</p> <p>②推す提案について理由を含めて発表する。</p> <p>③②意見に追加する意見や修正案等を発表しあう。</p>	<p>○前回の話し合ったことを掲示する</p> <p>○企画委員は必要に応じて巡視し、次の場合はアドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に内容を示していない場合 ・司会進行に困っている場合 <p>○教師は場合によっては次のアドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表し合うときに提案した理由を伝えるように意識させる。 ・深まりや広がりには欠けるときは立場や視点（見方、考え方）をもとに助言する。 「特定の立場から見てどうなのか」 「だれのためになっているのか」 <p>◎学級の一員としての自覚をもち、積極的に課題を解決しようとしている。 【主体的態度】〈観察〉</p> <p>○ICTを活用し意見をまとめながら視覚的にわかるようにする。</p> <p>○進行に行き詰ったときは企画委員内で相談をしながら進める。</p> <p>○教師は場合によっては次のアドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り合いをつけて合意形成を図ることができるように、必要に応じて、自分の意見に固執せず納得したうえで考えを変えることも大切であることを助言する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～2つに絞り込めなかった場合は何かいいアイデアがないか意見を求めてみる。 <p>○話し合った意見を整理して実践する内容を決める 【まとめる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深まりや広がりには欠けるときは立場や視点（見方、考え方）をもとに助言する。 ・ 時間を意識して無理に決めることがないようあらかじめ確認しておく。 <p>◎課題解決に向けて意見を出し合い、合意形成を図っている。</p> <p>【思考・判断・表現】〈発言・観察〉</p>
終末	<p>振り返り</p> <p>○話し合いの感想を書く</p> <p>○感想等の発表</p> <p>○教師の話</p>	<p>○ねらいに沿った話し合いができたかを振り返らせる。</p> <p>○発表を通して振り返りを共有する。</p> <p>○合意形成したことへの価値付けや称賛、今後の課題、企画委員会へのねぎらい、今後の見通しや実践へ向けての意欲付け等について簡潔に述べる。</p>

7. 研究の視点

- ・ 本時の学習はめざす生徒の姿にせまるものであったか。
- ・ 教師の関わり方が適切だったか。